

授業概要

本授業では、日本および西洋における教育の歴史や思想について講義する。第1～2回では、教育の意義について理解を深め、第3回～12回では、西洋と日本の教育思想家の教育実践を比較することを通して、現代の教育を考える際の基本的知識ならびに基本的視座を身につけられるように講義する。以上のことを通じて、「教育」を原理的に考察する視点・態度を身につけることを目標とし、第14回・15回にて現代の私たちが無意識的に持っている「教育観」を問い直すことを目指す。

授業計画

第1回	ガイダンス：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義とは何か
第2回	学校教育の役割と機能：教育とは何か
第3回	西洋における教育史・思想①：古代～中世の学校（ソクラテス・プラトン）
第4回	西洋における教育史・思想②：ルネサンス期の学校（エラスムス・ルター）
第5回	西洋における教育史・思想③：絶対王政期の学校（コメニウス・ロック・ルソー）
第6回	西洋における教育史・思想④：革命の時期の学校（ペスタロッチ・フレーベル）
第7回	西洋における教育史・思想⑤：20世紀の学校（デューイ・モンテッソーリ）
第8回	日本における教育史・思想①：古代～中世の学校
第9回	日本における教育史・思想②：江戸（貝原益軒・佐藤信淵・福沢諭吉）
第10回	日本における教育史・思想③：明治（森有礼・倉橋惣三・城戸幡太郎）
第11回	日本における教育史・思想④：大正（自由主義教育の展開）
第12回	日本における教育史・思想⑤：昭和（戦後教育改革）
第13回	まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり
第14回	理想の教育実践①：何を学ぶか
第15回	理想の教育実践②：どのように学ぶか
第16回	学期末課題

到達目標

- ・教育の理念・歴史・思想を学ぶことを通じて、学校教育の役割・意義を理解できる。
- ・現代の教育の基礎を築いた西洋の教育思想家と日本の教育思想家の思想を比較検討し、現代の教育を考える際の基本的知識を獲得することができる。

履修上の注意

第1回のガイダンス授業の際に、授業方法・評価方法・予習・復習について詳細に説明する。成績評価に関わる内容であるため必ず出席すること。なお、第1回目の授業に出席できない特別な理由がある場合（あった場合）には申し出て、配布資料を必ず受け取ること。

予習・復習

予習として、予め配布する資料に目を通しておくこと。
また、資料と授業の内容を併せて復習し、参考文献なども用いて理解を深めること。

評価方法

授業での取り組み（40%）と学期末課題（60%）によって行う。
授業での取り組みについては、授業で課すコメントペーパー・レポートの提出状況および評価、授業態度なども考慮する。なお、評価方法の詳細は、第1回のガイダンス授業で説明する。

テキスト

毎回、授業資料を配付する。授業内容についての参考文献は、授業資料で示すので、それを参考にしてもらいたい。